

# 人間の可能性を信じ、命を使う

名知 仁子 NACHI SATOKO (医師)

**なち さとこ** 約11年間勤務した大学病院を辞め、平成14年に国境なき医師団に参加し、ミャンマー難民の支援活動に携わる。ミャンマーの人々が自立して生きられる道と一緒に創るため、平成24年に「NPO法人 ミャンマー ファミリー・クリニックと菜園の会(MFCG)」を設立。ミャンマーの無医村で巡回診療を行い、これまで40,000人以上を診察。手洗いなど保健衛生の指導や有機野菜栽培の農業指導もしている。令和3年2月以降、政情不安定な同国において、自身も病と闘いながら、献身的な活動を継続している。令和5年度男女共同参画会社づくり功労者内閣総理大臣表彰を受賞。(狭山市出身)

- 朝起きてまずすること… のび
- 好きな食べ物…………… 刺身と納豆・肉
- 好きな映画…………… オードリー・ヘップバーンの映画 / 「ペイ・フォワード」
- リラックスタイム…………… 瞑想と空を見上げる
- 尊敬する人…………… 父とマザー・テレサ
- 5年後の私…………… 内面が明るく、より輝いて、透明感のある私



MFCG ©2023

## 人間の可能性に気づかせてくれた場所

平成14年(2002年)に国境なき医師団に入り、最初に派遣されたのが、ミャンマーとタイの国境沿いにある難民キャンプでした。そこは本当に何もありませんでした。でもそこで私は難民の彼らから人間の可能性を教えてもらいました。

学校がないので、彼女/彼らは数も数えられないし、何歳?って訊いてもわかりません。もちろん英語も話せません。でも、教えると次第に体重計の数値が読めるようになり、英語が話せるようになって、最終的には顕微鏡でマラリアや結核を見つけたり検査技師のような役目ができるようになりました。それは人間としての可能性で、実は誰もがそういう可能性を持っているのだと思います。でも彼女/彼らはたまたま習う機会がなかったのだと気づいた時に、人間の本来持っている可能性が存在することを確信しました。

さらに、私はそこで聴診器一本で人を診るという医療の原点も学びました。日本ではレントゲンなど様々な機器を用いて診断を下します。でもここには検査機器などありません。何もなしで、コミュニケーションをとりながら、聴診器一本で診断する。それはとても勇気がいります。国際医療は考えていた以上に厳しい世界で、私が11年間大学病院でやってきたことは一体なんだったんだろうと考えさせられました。

日本だったら助かる人が、ここミャンマーでは助かりません。でも助からなくても「ありがとう」と言われます。つらいです。国際医療の現場は生活環境も含めて、つらいことの方が多いなと思います。水道もないし、停電も多いし、基本的には床の上で寝ています。村の人々のご飯は腹を満たすだけ。本当に何もありません。でもそれ以上の喜びをここでは得られます。

## 命をどう使うか

癌になって人生をもう一度考えた時に、自分に人間の可能性と聴診器一本で人を診るという医学の原点を教えてもらったミャンマーの人たちに恩返しをしようと思いました。

「使命」って命を使うって書くじゃないですか。私は人生には目的があって、それに向かって命をどう使うかだと思うんです。人生はたった一度だと皆さんも感じてらっしゃると思います。そのたった一度の人生をどう使うか、それを自分で見つけるのはすごく大切なことだと思います。特にコロナを経験して、自分の人生について

考えた方も多いのではないのでしょうか。今の日本はとても便利だけれど、すごく忙しくて、誰もが時間に追われています。でも、そんな中で自分の人生をどういうふう生きていくのかを問われている気がします。

私は、人生はジグソーパズルのピースのようなものだと考えていて、人と人が手をつなぎ合わせると、ジグソーパズルのように絵が出来上がっていく。お互いが協働し、社会を創るために私たちは生きているんだと思っています。

## 若い世代に伝えたいこと

一番は恐れないこと。どんなことでもトライ&エラーだと思えます。今でこそ「国境なき医師団」はわりと有名になりましたが、私の時は医療従事者でさえ、ほとんど知りませんでした。日本人は私で5人目ですが、最初に私がやりたいと言った時、父親はもちろん、まわりの人たちからも、何バカなことってんの、10年間のキャリアを捨てるのか、と反対されました。賛成してくれた人はゼロでした。でも、もし本当にやりたいことがあるならば、失敗を恐れずに、トライ&エラーでやってみてほしいと思います。その時はわからなくても、あとになって役立つということも沢山あります。私は人生で無駄なものは何もないと思っています。

あともうひとつは、すぐに諦めてしまわないこと。自分が考えていたよりも大変だった、ということはいっぱいあると思うんです。でも、やめようかなと思った時に、あともう少しだけ続けてみたら違ったものが見えてくるかもしれない。あまりに早く諦めすぎると、夢を見つけるのが難しいと思います。できるかだけでなく、本当にやりたいもの、それに向かって、ひとつひとつ前に(横かもしれないけれど)進んでいってほしいです。そういうことをサポートできるようにもなりたいです。

私は60歳になりましたが、もっともっと日本とミャンマーを繋げたいと思っています。10年後にどんな社会をミャンマーに創りたいか、10年計画を立てました。日本とミャンマーが、いいところをお互い引き出せるような、輝かせることができるような、そういう社会を一緒に創ってほしいなと思っています。

NPO法人 ミャンマー ファミリー・クリニックと菜園の会(MFCG)  
HP <https://mfcg.or.jp/>  
Facebook <https://www.facebook.com/mfcg.or.jp/>  
Instagram <https://www.instagram.com/mfcgmyaugmya2015/>

## 令和5年度 埼玉県荻野吟子賞 候補者募集

本県出身で日本初の公認女性医師である「荻野吟子」にちなみ、男女共同参画の推進に顕著な功績のあった個人や団体、事業所を表彰します。

### ① 個人・団体部門(大賞・奨励賞)

先駆的な活動などにより各分野で特に功績が著しく、今後の活躍が期待できる以下の個人又は団体

- 県内に在住(勤・学)又は県出身の個人
- 県内に所在する団体

### ② いきいき職場部門(いきいき職場部門賞)

県内に所在し、女性の能力活用、男女の職域拡大又は仕事と子育て、家庭生活との両立支援など男女が共同して参画することができる職場づくりに積極的に取り組んでいる事業所

### 募集方法

#### (1)個人・団体部門

市町村、団体又は個人の推薦により、推薦書に必要事項を記入の上、応募してください(推薦以外の情報提供も可)

#### (2)いきいき職場部門

市町村、団体、事業所、個人又は埼玉県地域振興センター所長(事務所長を含む)の推薦により、推薦書に必要事項を記入の上、応募してください(自薦も可)

### 募集期間

令和5年7月15日(土)~9月29日(金)

### 問合せ

埼玉県県民生活部人権・男女共同参画課  
TEL 048-830-2921 FAX 048-830-4755  
E-mail a2250-05@pref.saitama.lg.jp

